

正中二年銘梵字板碑

所在地：須恵町大字佐谷 建正寺
時期：正中2年(1325)
指 定：福岡県指定有形文化財(考古資料)



■ 法華経を一万回

鎌倉時代の僧侶大乘坊妙蓮(みょうれん)が両親の供養と自分が犯した罪滅ぼしのために、法華経を一万回あげた記念碑です。法華経は、正和3年(1314)から正中2年(1325)までの11年をかけて読まれました。

法華経は普通にお経をあげて約9時間かかり、これからすると、一万回で90,000時間、連

続で読むと約10年かかります。箱崎宮で読み始めて、若杉山頂の太祖宮で数千部を読み、現在の須恵町佐谷観音堂で読み終えたことを示しています。

■ 県内最古級の板碑

この石碑は板碑という形式で、関東地方に多く見られますが九州では非常に珍しいものです。花崗岩で作られており、平

成13年(2001)に化学処理がなされ、珪酸質による強化がなされました。

碑文には、阿弥陀如来・釈迦如来・大日如来を表す梵字が刻まれ、法華経をたたえています。また、聖徳太子・伝教大師・弘法大師・聖空上人の名も刻まれているのがわかります。